

三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 施設運営の基本的な考え方

三鷹市では令和元年度から、三鷹中央防災公園・元気創造プラザの総点検に取り組んでいます。この総点検は、平成29年度のオープン以来、多くの皆さんに利用されている同施設について、ハード・ソフトの両面から多角的な視点で点検を行うことで、施設をより良く活用することを目的としています。

総点検2年目となる令和2年度に実施した市民参加、学識参加、職員参加で出た意見を踏まえて、以下のとおり「施設運営の基本的な考え方」をまとめました。今後は、この5点の考え方をもとに、より良い施設運営をめざします。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響等により、令和3年度の市民参加等の取り組みについては、感染者数の動向やワクチン接種の状況を見ながら、年度の後半に進めていくこととします。

1 複合施設から融合施設へ

三鷹中央防災公園・元気創造プラザは、「総合スポーツセンター」「子ども発達支援センター」「総合保健センター」「福祉センター」「生涯学習センター」「総合防災センター」と「三鷹中央防災公園」の大きく7つの機能が含まれる複合施設です。平成29年度のオープン以来、多くの市民の皆さんにご利用いただいておりますが、老朽化していた旧施設・機能を、市民活動を止めることなく再設置するために創られた「多機能複合施設」としての同プラザの特性上、専門性の高いフロアごとの活動が独立した運営となっており、相互連携が薄いことに課題があります。

令和2年度の総点検の取り組みでは、参加した市民や職員、学識経験者から、各フロア間の交流や多世代交流など、施設全体を融合施設とするための意見やアイデアが多く出されました。新たな活動の場としてオープンした三鷹中央防災公園・元気創造プラザの特性をさらに発展させるために、各フロア間の「縦連携」による「融合施設」をめざします。

《令和3年度以降の方向性》

「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」が、スポーツ、生涯学習、福祉、健康、公園、防災の各機能が融合する「元気創造都市みたか」の拠点施設として機能するよう、「縦連携」による「融合施設」としての全館的な取り組みを推進します。

施設全体の情報共有の方法や、駐車場・駐輪場等の使い方、また、全館が融合するイベント等の企画・運営などについても継続的に検討します。

2 魅力的な場づくりのための更なる改善

多くの市民が利用する三鷹中央防災公園・元気創造プラザがより使いやすい施設となるためには、共有スペースの活用方法が重要なポイントです。1階エントランスや地下1階のスポーツエントランス、駐輪場や公園など、多くの人が利用する「共有スペース」について、「魅力的な場づくり（プレイスメイキング）」を進める必要があります。

令和2年度の総点検の取り組みでは、共有スペースの使い方や飲食・カフェ等の設置について、多くのアイデアが出されました。施設それぞれの機能に合わせて目的を持って来館・利用する人に加えて、「居心地の良い場所」「楽しい場所」として日常的に立ち寄る人が増えることで、市民に愛される施設として有効活用されることをめざします。

《令和3年度以降の方向性》

「共有スペース」の使い方やカフェ機能等については、魅力的な場づくりを進めるために、市民参加によるワークショップを令和3年度後半に実施する予定です。

総合スポーツセンターや生涯学習センター等の具体的な利用方法については、指定管理者である公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団とも連携し、利用者の皆様がより使いやすい施設となるよう、改善に着手します。

3 市民参加の推進

三鷹中央防災公園・元気創造プラザの運営について、市民の皆さんの参加により「魅力的な場づくり」をめざしていくことが重要だと考えています。

令和2年度の総点検の取り組みでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインが中心の市民参加となりましたが、市民参加の方向性について多くのアイデアが出されました。多くの人に利用していただく三鷹中央防災公園・元気創造プラザがより魅力的な場となるために、継続的に行っているアンケート収集に加えて、1階ロビーやモール、公園等の場所を想定した共有スペースについて、施設を知ってアイデアを出すための「ウォークショップ」や、具体的な場づくりを図るワークショップ等を開催します。

《令和3年度以降の方向性》

令和3年度では、市民参加の1つの手法として、館内の見学会を兼ねた「ウォークショップ」（見学をして歩きながら、気づきやアイデアを共有するワークショップ）を実施します。新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、年度の後半に実施する予定です。

また、「総点検」が終了した後も改善が継続されるよう、施設全体について市民・学識経験者・職員が意見交換するための枠組みについて、令和4年度に立ち上げることをめざして検討します。

4 学識参加と職員参加

多機能複合施設を融合施設としていくために、助言者会議の助言を受けながら、職員参加による活動に取り組みます。

令和2年度は、助言者会議に加え、市民向け講演会及び総点検市民会議をオンラインを中心として実施しました。また、職員研修ワークショップをオンラインで開催するとともに、総点検市民会議では、オンラインでのグループディスカッションに職員も参加するなどの取り組みを進めました。今後は、各フロアの専門性を活かしつつ、フロア間の「縦連携」による市民講座等を開催することで、各機能の連携と新たな市民サービスの提供をめざします。

《令和3年度以降の方向性》

引き続き、助言者会議を開催して職員参加、市民参加に対する助言をいただきつつ、プラザ内に職場のある職員やスタッフの間の連携を深め、新たな市民サービスを提供するために、学識経験者の助言を受けながら、令和3年度から「縦連携講座」を開催します。

5 市民ニーズに対応した施設の改修と機能の改善

令和元年度、2年度の総点検の取り組みの中では、施設改修及び機能改善について、多くの意見・要望が寄せられています。

今後は、これらの意見・要望に基づき、市民参加を図りながら、施設の改修や機能の改善に取り組めます。

《令和3年度以降の方向性》	
元気創造プラザ全体に関する項目	
<ul style="list-style-type: none"> ● 共有スペースの改修の検討 ● カフェ・売店等の設置の検討 ● 1階エントランスの床の改修の検討 ● 駐輪場・バイク置場の増設の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ボランティアポイント」の導入等を見据えた券売機の機能向上 ○ 施設予約システムの改善の検討 ○ 駐車場の時間枠設定の改善の検討 ○ コミュニティバスの利便性向上の検討
総合スポーツセンターに関する項目	
<ul style="list-style-type: none"> ● プール更衣室床の改修の検討 ● プールサイド床等の改修の検討 ● スポーツ団体への貸出倉庫等の設置の検討 ● メインアリーナ南側窓の遮光改修の検討 ● 防球ネットの改修の検討 ● 競技用ラインの改修の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用料金回数券の導入の検討 ○ スポーツ教室の実施種目や実施方法の検討 ○ スポーツエントランスの窓口の改善の検討 ○ 個人開放の種目や開催曜日の検討
生涯学習センターに関する項目	
<ul style="list-style-type: none"> ● 学習室における扉の増設 ● 個人利用スペースの拡充の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用時間枠の見直しの検討 ○ キャンセル料の設定方法見直しの検討
三鷹中央防災公園に関する項目	
<ul style="list-style-type: none"> ● 未就学児対象遊具の設置の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時の車両進入防止への対策の検討 ○ Park-PFI (※) の活用による改善の検討

●：施設改修に関する項目 ○：機能改善に関する項目

※Park-PFI：都市公園における民間資金を活用した新たな整備・管理手法。飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の道路、広場等の整備、改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度。

【参考】三鷹中央防災公園・元気創造プラザ総点検の流れ

1 「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」総点検について

三鷹市では、令和元年度から「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」の総点検に取り組んでいます。この総点検は、平成29年4月のオープン以来、多くの市民の皆さんにご利用いただいている三鷹中央防災公園・元気創造プラザについて、施設のハード・ソフトの両面から多角的な視点で点検を行うことで、施設をより良く活用することを目的としています。

2 令和元年度の取り組みについて

総点検の初年度である令和元年度は、「職員参加による課題の整理」「施設の運営関係者へのヒアリング」「施設利用団体への事前ヒアリング」を行って、「令和元年度 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 総点検に関する報告書」をまとめました。

3 令和2年度の取り組みについて

総点検2年目となる令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策の必要が生じたことから、市民参加のスケジュールや手法について再検討し、オンラインを活用して、講演会や職員ワークショップ、そして「総点検市民会議」を開催しました。また、市民意見を基にした施設改修に着手しました。1年間を通して市民の皆さんや職員から出された約380件の意見は、『令和2年度 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ「総点検市民会議」等の実施及び市民意見の収集に係る報告書』にまとめられています。令和2年度の市民参加等の概要は、次のとおりです。

(1) 市民参加

ア 講演会・市民会議での意見収集（意見：189件）

①	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ総点検講演会～公共施設を魅力的な場にするために～の開催	《第1回》 令和2年12月15日（火）19:00～20:30 内容：「プレイスメイキング」という考え方について 講師：槻橋修神戸大学大学院工学研究科准教授、中村陽一立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授 参加者：40人（会場8人、オンライン32人） 《第2回》 令和2年12月18日（金）19:00～20:30 内容：公共施設の「ソーシャルデザイン」を考える 講師：中村陽一立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授、河村孝三鷹市長 参加者：59人（会場15人、オンライン44人） ファシリテーター：青木将幸氏
---	---	---

②	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 総点検市民会議の開催	令和3年2月23日（火・祝）13:30～16:30 内容：プラザをより良く活用するための手法や、今後の市民参加について話し合う。 ファシリテーター：青木将幸氏 参加者：オンラインワークショップ13人、会場参加1人
---	-----------------------------	---

イ 市民団体からの意見提出と市民意見の募集（意見：97件）

①	三鷹市体育協会	令和2年7月1日
②	ベッセルスポーツクラブ	令和3年3月末
③	市民意見の募集	令和3年2月19日～3月12日

ウ 利用者懇談会からの意見提出（意見：27件）

①	生涯学習センター利用者懇談会	令和3年3月25日
②	体育施設利用者懇談会	令和3年3月25日

(2) 学識参加

ア 助言者

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 中村陽一教授
神戸大学大学院工学研究科 槻橋修准教授
青木将幸ファシリテーター事務所 青木将幸氏

イ 内容

令和2年7月1日から令和3年2月19日までの間で、オンラインを活用しながら、進め方、市民参加手法や職員参加の持ち方等について、計13回のミーティングを実施

(3) 職員参加

ア 職員からの意見収集（意見：68件）

①	職員ワークショップの開催	令和3年1月19日（火）13:30～16:30 内容：プラザを運営する職場の職員どうして、施設運営の今後について考える。 ファシリテーター：青木将幸氏 参加者：元気創造プラザ関係職員20人
②	庁内からの意見収集	令和3年2～3月 全庁の職員に提案を求め、2人から提案があった。

イ 事務局会議の開催

令和2年6月17日から令和3年3月10日までの間で、三鷹市スポーツと文化部、三鷹ネットワーク大学推進機構等による事務局において、オンラインを活用しながら、進め方、ワークショップ等の手法、講演会の内容等について、計8回の会議を開催

令和2年度の「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 総点検」に寄せられた主な意見等

(1) ハード面での意見・提案

①共有スペースについて

- ・共有スペースを多世代の人が交流できるスペースにしたら面白いのでは。同時に全体の情報が得られる場所にしてほしい。
- ・共有スペースは「居場所」として目的を持った人以外も利用できる場所であるべき。
- ・今の共有スペースは「目的地へ行く道」になってしまっているのではないか。
- ・協働センターや旧社会教育会館のような、テーブルがあって会話ができる場所があったら良い。
- ・生涯学習センターや福祉センター受付前の談話スペースのようなものが総合スポーツセンターにもあったら良い。
- ・1階エントランスホールなどの共有部を災害時に転用する視点も取り入れて、集中的に改善したほうが良い。
- ・予約の必要がない小さなスペースを作れないか。
- ・少人数で利用できるスペースがほしい。
- ・東モールやB1への階段スペースなどを活用できないか。
- ・夏は外にテントをはるなどの配慮があっても良いのでは。

②飲食・カフェ機能について

- ・利用者が自然に交流できるオープンカフェ的なスペースが外の公園などにあると良いのではないか。
- ・お昼にキッチンカーや出張販売などが来るようになると良い。
- ・レストランやカフェを市民主導で運営できないか。
- ・コンビニがあると便利ではないか。
- ・コロナが落ち着いたら、キッチンカーやカフェをプレイスメイキングの実験として設置してみると面白いのでは。
- ・Park-PFI制度を活用したカフェ等の設置も検討できるのではないか。

③施設への要望について

- ・市役所や立体駐車場側とプラザの敷地の間の歩行者動線をわかりやすくしてほしい。
- ・建物全体の動線をわかりやすくしてほしい。
- ・生涯学習センター学習室に入り口を増設してほしい。
- ・総合スポーツセンターメインアリーナ・サブアリーナ・武道場の競技用ラインについて改善してほしい。
- ・総合スポーツセンターに団体が利用できる倉庫を設置してほしい。
- ・公共施設の体育館はどこも殺風景なことが多いので、電気を明るくする、色彩を取り入れる、花や観葉植物を配置する、掲示物の文言にポジティブな表現を用いる等、利用する人の気持ちが豊かになるポジティブで心地よい環境づくりを進めてください。

④駐車場・駐輪場・交通手段について

- ・駐輪場を増設してほしい。(イベントがあると自転車があふれている。臨時駐輪場が常態化している。)
- ・駐車場を増設してほしい。(障がい者や子ども連れの人が市役所側の駐車場を利用するのが難しい。楽器などの大きな荷物を運びこむときの専用駐車場がほしい。)

- ・交通の便が悪いと高齢者は来館し難いので、シティバスの本数を増やしてほしい。
- ・駐車場の無料時間を変更してほしい。

⑤三鷹中央防災公園について

- ・環境問題に配慮して植物を増やした方が良い。
- ・コロナ後の活動に向けて、野外のアクティビティのために、防災機能も兼ねたパークハウスや野外カフェなどを設置しては。
- ・災害時に緊急車両が間違っ中央広場へ進入しないように車止めと車両進入禁止の看板を予め設置したほうが良い。

(2) ソフト面への意見・提案

①融合施設・多世代交流

- ・複合施設としてできたのであれば、各フロアの融合が大事だとも思う。現状ではバラバラのような気がする。
- ・利用者も自分が利用したいフロアに行くだけで、その他の施設について知らないのではないか。
- ・融合と言っても難しい。興味の無い事を知ろうという意欲をかきたてるテーマが必要。
- ・いろいろな階があるので、例えば「高齢の方が子供向けに講座を開く」とか「若者が高齢の方にスマホの使い方を教える」などの活動があったら良いのでは。
- ・プラザを利用する人が偏っているのではないか。昼間仕事をしている人や一人暮らしの人などはプラザに来たことがないのでは。
- ・放課後に小学生が集まれるような場があったら良いのでは。公園で遊ぶだけではなく屋内で集まれる場所が提供できると良い。
- ・中学生にも勉強できる場所などがあれば良いのではないか。

②市民参加

- ・市民が企画する相互交流のための「ウォークショップ」を始めてみたらどうか。
- ・市民が運営に関わる「市民運営室」を作れないか。
- ・市民が自由に関われることが大事だと思う。
- ・気軽な会話ができる場所で会話から「一緒にやろう」という発想が出ると良いと思う。
- ・オンラインの活用も必須だと思う。

③事業等企画について

《講座・教室の実施方法について》

- ・オンライン併用の参加方法を増やすことや市民講座のアーカイブ配信をしてほしい。
- ・連続講座の場合、参加費が高額だったり参加できない日があったりするのでは、単発での参加もできるようにしてほしい。
- ・定期的で開催している講座の中で応募が多かった講座、少なかった講座の結果を次回に反映してほしい。
- ・興味のある講座でも時間帯が合わないことがあるので、もっと色々な曜日や時間帯で開催してほしい。
- ・市民がスポーツ教室へ参加できる機会や時間的な選択肢を増やす工夫してほしい。
- ・講座や教室に子どもが参加している間に、待っている親が参加できるものを実施したら良いのではないか。

- ・大人向けの体力測定会などを実施して、スポーツ教室への参加や健康維持の取り組みへ繋げたらよいのではないかと。
 - ・外出自粛期間で定着してきた親子・家族でできる運動の推奨や、ウォーキング・ジョギングを継続できる仕組みを進めてほしい。
- 《全館を通じたイベントについて》
- ・「プラザ祭り」のような各センター合同で行う全体の祭りがあるといい。
 - ・全館でそれぞれの機能は対象が異なると思うので、全館同日に幅広い世代を対象としたイベントを実施すると良いのではないかと。
 - ・既存イベントの同時開催をしてみたら良いのではないかと。
 - ・災害時を想定した泊まり込み訓練のようなものを市民主体で企画できたらいい。
 - ・1ヶ月に1回など定期的に、メインアリーナやプールの無料開放や生涯学習センターホールでの無料の映画上映会など、子どもたちも含めて人が集まりやすい日を作ったらよいのではないかと。

④情報発信について

- ・どこで何をやっているのかわかり難いのでは。
- ・どこでどういう活動をしているのか電光掲示板等で表示できないか。
- ・当日の講座についてサイネージではなくもっと身近に感じられる情報発信方法があるといい。
- ・各フロアが独立しており、それぞれのフロアで何をしているかわからないため、電光掲示板以外にも、当日の貸し出し状況がわかるような一覧を掲示するなどの情報発信が必要。
- ・外国人向けの案内や手続き等の説明が不十分なので検討してもらいたい。
- ・自主グループで活動している人たちが自分たちの活動をPRしたりグループ同士が交流したりする場がほしい。
- ・色々な市民グループが色々な活動、イベントを開催していますが、すべてを一望できるようなサイトが欲しいです。

⑤手続・施設予約システム

- ・備品の予約を紙ではなくシステムでできるようにしてほしい。
- ・施設の抽選結果をもっと早く発表して次の予約ができるようにしてほしい。
- ・使用料の減免申請の手続きを簡素化してほしい。
- ・体育館の利用について情報発信をしてほしい。また団体へのメール発信などで通知をしてほしい。
- ・施設予約システムや講座申し込みシステムについて、もっと簡単に入力できるものにしてほしい。

⑥施設の利用方法等

- ・生涯学習センターの調理室を子ども食堂等に活用したい。
- ・メインアリーナで大会等があると小体育室が控室に使われてしまって使えない。
- ・自分たちの団体が使いたい時間に他の予約が入っていて使えない。計画が立てにくい。
- ・メインアリーナの観覧席が有効活用されていないのではないかと。
- ・利用マナーに関連する苦情が多いので、「利用のしかた」などで注意喚起してほしい。
- ・生涯学習センターの施設について、もう少し個人が利用しやすいシステムを考えていければよいのではないかと。

- ・個人での体育施設利用を増やすために、ボール等の貸し出しがあると立ち寄りやすい。
- ・個人利用が1つのキーワードではないか。個人の居場所というのは大切だと思う。

⑦防災

- ・避難場所は外だけで、建物の中に避難できない。
- ・防災拠点としての機能を知れば市民の意識も変わって使い方も変わってくるのでは。
- ・災害時の状況を体験する泊まりのイベントや、防災×スポーツなどの事業があればよいと思う。
- ・利用者同士の交流が図れるようになるといい。防災というのは1つのきっかけになるのではないか。

⑧備品等の要望

- ・やわらかいボールを入れてほしい。
- ・武道場2や小体育室に事務室に連絡を取る手段を入れてほしい。
- ・メインアリーナ両サイドの卓球台をどこかに収納してほしい。
- ・フットサルゴールのネットが破れている。
- ・サブアリーナの防球ネットがバスケットゴールにひっかかる。
- ・学習室5～7にも固定のプロジェクターを設置してほしい。
- ・館内のwi-fiが使いづらいので改善してほしい。
- ・意見箱の場所を目立たせた方がよい。

⑨利用料金

- ・生涯学習センターで施設使用料がかかるようになったため、活動回数が減ってしまった。施設使用料が安ければ毎週活動したい。
- ・第一体育館時代と比べて使用料が高くなった。
- ・生涯学習センターホールの使用料に音響機器使用料が含まれているのであれば使用料を分けてもらいたい。
- ・近隣市の施設と比較しても、施設使用料については適正であると感じている。

⑩コロナ対策

- ・コロナ対策で大きな部屋を取った場合の料金について、臨時的な措置を考えてほしい。
- ・感染対策に配慮しつつ、人数制限を緩和してもらいたい。
- ・オンラインを活用したサービスを充実させてほしい。
- ・メインアリーナの外で次に使う団体が密になっているのが気になる。
- ・自動体温計を入口に設置してほしい。
- ・各室に消毒スプレーを置いてほしい。